

特別支援学級における学びを豊かにする授業に関する事例研究

— 小集団の「関わり合い方」に影響を与える実践を通して —

井上 美由紀 ・ 若松 昭彦*

1. 学びを豊かにする授業

広島大学附属東雲中学校（以下、本校と略記）では、平成 27 年度よりグローバル時代をきりひらく資質・能力を培う教育の創造を研究テーマとして研究を進めてきた（広島大学附属東雲小学校・東雲中学校, 2015）。今年度の本校における研究目的は、グローバル時代をきりひらく資質・能力を子どもたちの主体性・多様性・協働性から捉え、学びを豊かにする授業内容を明らかにすることである（広島大学附属東雲小学校・中学校, 2017）。

本稿では、特別支援学級における小集団の「関わり合い方」に影響を与える実践を通して、生徒の主体性・多様性・協働性がどのように伸長したかを考察する。このことにより、特別支援学級における学びを豊かにする授業について論述する。

2. 研究の目的と方法

次期学習指導要領によると、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、子どもたちに生きる力を育むことをめざしている（文部科学省, 2017）。これらの文部科学省が指向する教育は、子どもたちの主体性・多様性・協働性から学びを豊かにする授業内容を追究する本校の研究活動と一致するものである。

本稿における研究の目的は、特別支援学級における学びを豊かにする授業を、小集団の「関わり合い方」に影響を与える実践を通して、生徒の主体性・多様性・協働性に着目し、学ぶ姿の変容を明らかにすることである。

そのために、2段階の方法で研究を進める。まず、生活単元学習の単元「折り紙カレンダー」に焦点を当て、同じパターンの学習過程の中で、月毎に「関わり合い方」に影響を与える授業を設計し、「関わり合い」の中での主体性、多様性、協働性の評価規準を設定する。次に、実践授業から、生徒の学ぶ姿やその変容を分析する。

以上のことを基にして、本研究の目的及び方法を、図 1 に表す。

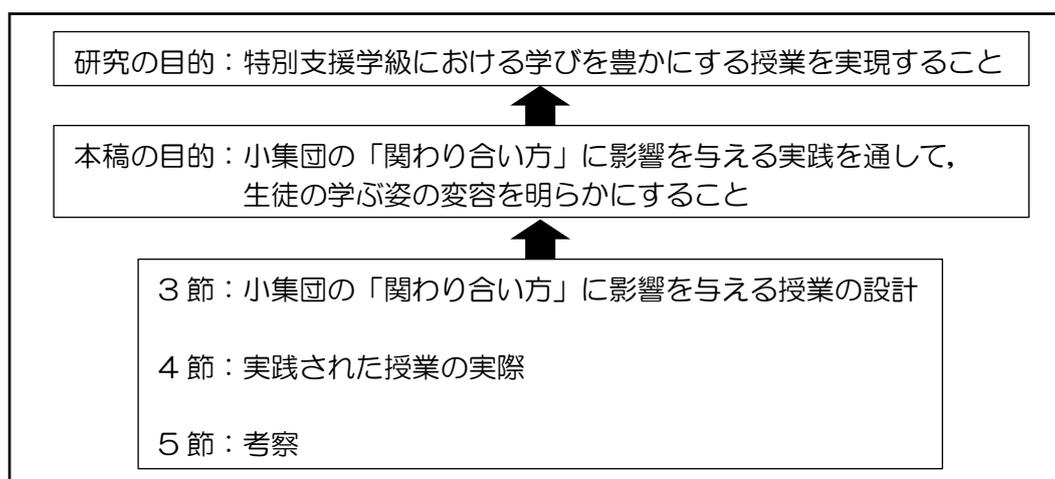


図 1 研究の目的と方法

* 広島大学大学院教育学研究科

Miyuki INOUE, Akihiko WAKAMATSU

Case study on classes promoting learning in special support class :

Through practice to change "relationship" in small group

3. 小集団の「関わり合い方」に影響を与える授業の設計

本節ではまず、「関わり合い方」に影響を与える授業の設計方針を示す。次に、その方針に沿って立てた単元「折り紙カレンダー」の年間計画を示す。そして、月毎の学習過程における具体的な「関わり合い方」の変容や変容させる方針を示す。最後に「関わり合い」の中での評価規準を設定する。

3-1. 「関わり合い方」に影響を与える授業方針

国立教育政策研究所(2016)や今年度の本校特別支援教育(知的障害)の研究計画(広島大学附属東雲小学校・中学校, 2017)等を参考にし、本研究推進に適する「関わり合い方」に影響を与える授業方針を立てた。

- (1) 生徒が自ら考えたいくなる課題,あるいは考えざるを得ない課題を提供する。
- (2) 教師が有効な動機づけをする。
- (3) 関わり合う場面を設定する。
- (4) 少しずつ作成のポイントを変化させる。
- (5) 少しずつ「関わり合い方」の工夫を変化させる。

3-2. 単元「折り紙カレンダー」の年間計画

生活単元学習の単元「折り紙カレンダー」について、同じパターンの学習過程の中で、月毎に「関わり合い方」に影響を与える授業の年間計画を表1に示す。

表1 単元「折り紙カレンダー」の年間計画

	作成のポイント	「関わり合い方」の工夫
4月	カレンダーの価値づけをし、作り方の見通しをもたせる。	知識の習得
5月	選択の場面、協働する場面を設定し、作成させる。	知識の活用 新たな関わり合い方
6月	5月同様の手順で作成し、選択の場面に変化をもたせる。	知識・経験の活用 新たな経験
7・8月	6月同様の手順で作成させる。	知識・経験の活用
9月	行事の見つけ方をおさえ、7・8月同様に作成させる。	知識・経験の活用 新たな知識の習得
10月	自分たちで行事を見つけさせ、10月にちなんだ折り紙を本やインターネットで調べさせ、作成させる。	知識・経験の活用 新たな関わり合い方
11月	10月同様の手順で作成させる。	知識・経験の活用
12月	12月の台紙の色を、根拠をもって意見を出し合って決めさせ、11月同様に作成させる。	知識・経験の活用 新たな関わり合い方

3-3. 学習過程の工夫

まず、月毎の学習過程における具体的な「関わり合い方」の変容や工夫点を、表2に示す。次に、「関わり合い方」の工夫を変容させる具体的な方針について図2に示す。

表 2 学習過程の変容

学習過程の変容 (4月を基本とし、変容させた部分を太字で示す。)					
4月	5～8月	9月	10月	11月	12月
<p>1. 導入</p> <p>□完成品の見本を見せ、本時の内容と目標を確認する。</p>	<p>1. 導入</p> <p>□前時のふりかえりをし、本時の内容と目標を確認する。</p>				
<p>2. 展開</p> <p>※T が手順を示し、リードしながら作成する。</p> <p>□カレンダーの色の理由を知る。</p> <p>□行事カードを日付順に貼る。</p> <p>①行事を知る。</p> <p>②行事の中から、自分の担当をルールに沿って決める。</p> <p>③日にちを確認し、カードに書く。(個別)</p> <p>④日付順に並べ、貼る。(集団)</p> <p>□折り紙を折り、貼る。</p> <p>①2種の完成品(チューリップ、葉)を見て、折るものを知る。チューリップが一人で折れた生徒は、葉に挑戦することを伝える。</p> <p>②折り方や手本を見て、一人で折れることを目指し、それぞれの生徒が折る。(個別)</p> <p>③完成品を貼る時のポイントを知り、貼る。(集団)</p>	<p>2. 展開</p> <p>※T は手順やヒントを示しSが考えながら作成する。</p> <p>□カレンダーの色を予想する。</p> <p>□行事カードを日付順に貼る。</p> <p>①行事を見つけ発表する。</p> <p>②行事の中から、自分の担当をルールに沿って自分たちで決める。(集団)</p> <p>③日にちを確認し、カードに書く。(個別)</p> <p>④日付順に並べ、貼る。(集団) 5, 6月: 貼る位置の線有→7・8月: 無</p> <p>□折り紙を折り、貼る。</p> <p>①5月2種の完成品(こいのぼり、かぶと)を知る。6月, 7・8月難易度を示した数種の完成品を知る。</p> <p>②どれを折るか、選んで決める。</p> <p>③手順表を見て、一人で折れることを目指し、それぞれの生徒が折る。(個別)</p> <p>④完成品を貼る時のポイントを全員で確認し、考えながら貼る。(集団)</p>	<p>□行事カードを日付順に貼る。</p> <p>①9月の行事数を示し、月間行事予定表から3組行事を見つける。(個人)⇒4人でどれが適切な3組行事かを考えさせる。(集団)</p> <p>④日付順に並べ、貼る。(集団) 貼る位置の線は引かず、どうしたら、分かりやすい貼り方になるか、4人で考えながら貼る。</p>	<p>□折り紙を折り、貼る。</p> <p>①本やインターネットから、10月や10月の行事にふさわしいものを選んで、自分たちが折れそうなものを探す。(個人)</p> <p>②探したものを出し合い、どれを折るか選んで決める。(集団)</p>	<p>※11月カレンダーの学習過程は、10月カレンダーと同様に行う。</p>	<p>□カレンダーの色を、根拠を発表し合い、話し合って決める。(集団)</p>
<p>3. まとめ</p> <p>□完成品を鑑賞し、感想を発表する。</p> <p>□目標の振り返りをする。(自己評価, 他者評価)</p>					

課題①	台紙の色を考える。 色の決め方を知る。 ↓ 月の色を予想する。 ↓ 色の決め方をもとに、全員で意見を出し合い決める。	
方針 変容させる		
課題②	3組行事を書いて貼る。 3組行事になる条件を知る。行事分担する。 ↓ 行事予定ボードから探す。話し合って行事分担をする。 ↓ 月間予定表から探す。全員で確認し合い行事分担する。	
課題③	折り紙を折って貼る。 手順を見て折る。貼るルールを知り、貼る。 ↓ 難易度の示された数種の中から折るものを選ぶ。 ↓ その月にふさわしい折り紙を探し、伝え合い選ぶ。	
方針 変容させる		折り紙カレンダー（例：4月）

図2 「関わり合い方」の工夫を変容させる具体的な方針

3-4. 「関わり合い」の中での評価規準

本研究の対象となる生徒は、第1学年の生徒4名（男子2名、女子2名）である。4名とも知的障害を有、その内3名は、それぞれがダウン症、ADHD、自閉症を併せもっている。また2名は、東雲小学校特別支援学級から入学している。4人とも自分の思いを言葉で伝えることができる。しかし、他者の思いへの関心は薄く、促せば相手の思いを聞こうとすることはできる。このような生徒の実態から、若松・水野・陰（2016）、若松・川原・熊田・鏡原（2017）等を参考にして、次のような「関わり合い」の中での評価規準を設定した（表3）。

表3 「関わり合い」の中での評価規準

評価規準	自分の意思を表している【主体性】	他者の思いを理解した言動をしている【多様性】	課題解決に向かって協力し遂行している【協働性】
ステージⅢ	<p>根拠をもって相手に伝わるように話すことができる。</p> <p>「(理由は) ~だから、」 「~に書いてあるように~」 「前は~だったから」 「絵で説明すると~」 「比べてみると~」等</p>	<p>他者の意見をくみ取り、つながりのある思考ができる。他者を認め、励ます言動ができる。</p> <p>「~さんと同じで(ちがって) ~と思います」 「付け加えると~」 「がんばって」「~さんを助けます」 他者の発言後の拍手等</p>	<p>課題解決のため、折り合いをつけようしたり、独創的な意見や発想を思いついたりできる。</p> <p>「(A+B=A' B', C, A→B) 案はどうですか」 「~という条件なら賛成です」 「~するとみんなが楽しくなると思っています」等</p>
ステージⅡ	<p>進んで自分の思いを伝えようとする事ができる。</p>	<p>他者の意見を聞き、同意や質問、要求を示す言動ができる。</p>	<p>課題解決に向かって、自他の役割を理解し、みんなで課題遂行しようとする。</p>

	具体例	「わかりました」, 「聞いてください」, 挙手して自分の思いを伝える等	「いいね」, 「なるほど」, 「～は、どういうことですか」, 「もう一度言って下さい」, 「時間をください」等	「いっしょにしよう」, 「いっしょにがんばろう」, 「手伝おうか(手伝って)」, 「ゆずります」等
ステージ I	評価基準	表情や動作で意思表示をしたり, 意見を聞かれて自分の考えを伝えたりできる。	促されて, 他者の意見を聞くことができる。	課題解決に向かって, 自分の役割を理解し課題遂行できる。
	具体例	笑顔, 頷く, 困った表情, 首を横に振る, 聞かれて「～と思います」等	周囲からの声掛けなどにより, 他者の意見を聞いて理解する等	任されたことを進んで行う, 順番が待てる等

4. 実践された授業の実際

本節では, 評価規準(表3)に基づいて, 実践授業における生徒の逐語記録の一部を評価する。次に評価した「関わり合い」の中での学ぶ姿の変容を挙げる。

4-1. 実践授業における逐語記録

実践授業における逐語記録のうち, 表4, 表5, 表6として, その一部を示す。なお, 生徒の言動における主体性・多様性・協働性の評価を, 評価基準のステージ(表3)で示した。生徒の言動の評価は, 授業者1名で行った。下線は, 5. 考察のポイントにした箇所を示している。

表4 9月折り紙カレンダー逐語記録(一部抜粋)

場面	難易度を示した数種類の折り紙の見本から選択して折り紙を折って貼る課題に入る場面				
生徒	No	生徒(A, B, C, D)の言動と教師(T)の支援	主	多	協
C	1	(手を挙げて)先生思ったんだけどさー, <u>みんな2個か3個のほうがいいと思う。</u>	II		III
D	2	(Cの話に割り込み) うち, <u>きのこがいいなあ。</u>	II		
B	3	(Cの話に割り込み) ぼく, <u>どんぐりときのこ作ったことあるけえ分かります。でもウサギは分かりません。</u>	II		
C	4	ちょっと, <u>みんな聞いてください!</u>	II		
T	5	聞いてくださいって言っているよ。みなさん聞いてくださいって。	/		
C	6	<u>えーっと, 4月から6月とか7月とか8月とか, 折り紙を普通に作っとたら, ケンカになった時があってから, (折り紙を) いっぱい置く人と, ちょっとなら置けなかった人がおったから, 2個か3個くらいの方がいいと思います。</u>	III		III
T	7	みなさん, どう思いますか?	/		
B	8	<u>OK! 2個にしよう。</u>	I	II	
A	9	<u>オレ10個。</u>	I		
D	10	<u>うち, 3つ。</u>	I	II	

表5 10月折り紙カレンダー逐語記録(一部抜粋)

場面	行事カードの分担時, 担当したい行事が重なった時の場面(以前は譲り合いが難しかった)				
生徒	No	生徒(A, B, C, D)の言動と教師(T)の支援	主	多	協
T	1	重なっているところは…	/		
D	2	BさんとAくん	II		
C	3	です。		II	

B	4	二人でやろう!			II
A	5	いいね!		II	
B	6	はや, 早く終わるじゃん。	II		
A	7	いいねー! (二人とも笑顔)	I	II	
B	8	イエーイ! (ハイタッチをしようとする)	I		II
A	9	ブルゾンちえみ, ウィズ B! (二人でポーズを決める)	I		II
B	10	じゃ, やりましょ, 二人で。			II
A	11	うん! (二人とも笑顔)		II	

表6 11月折り紙カレンダー逐語記録(一部抜粋)

場面		カレンダーの色を予想し当てる場面			
生徒	No	生徒(A, B, C, D)の言動と教師(T)の支援	主	多	協
T	1	それでは早速カレンダーの色を当てていきたいと思います。自分が考えたこと, 理由を言って, この色だと思います, と言ってみましょう。	/		
D	2	はいはい! (手を挙げる)			
T	3	Dさん	/		
D	4	はい, 私は色と言え, 赤だと思います。理由はもみじが赤っぽくて, 紅葉も赤だからです。			
T	5	ああ, なるほど, 分かりました。他には… (D以外の3人が手を挙げる) Cさん。	/		
C	6	はい。Dさんは, 赤だと言ったけど, 私は白です。			
T	7	ほう。	/		
A	8	えーっ! (驚いた表情)			
B	9	白? (疑問をもった様子)	II	II	
D	10	(ニヤツとして笑っている)	I		
C	11	理由は, 寒くなってきたから, 白は寒っぽくなってきたから。 私は12月が赤だと思うから, 11月は白だと思います。	III		
T	12	なるほど, 寒っぽいから	/		
B	13	はい, はい! (手を挙げる)			
T	14	Bくん	/		
B	15	Dさんと一緒に, あ, 赤色だと思います。色は一緒だけど, 理由はちょっと違います。			
T	16	いいねえ。	/		
B	17	えっと, 赤色の理由は, えー11月は赤だと思います。それは, えーっと, (言葉に詰まり, 周りを見渡しながらか) 赤い…もみじだから…			
T	18	それは, Dさんと似ていますよ。 (Bはニヤニヤ恥ずかしそうにする。) はい, Aくんは何色だと思いますか。	/		
A	19	オレはね, たぶん黄色と思う。 理由はね,			
B	20	(Aの発言途中で) 黄色あるよ, もう。(9月カレンダーを見て言う。)	II		
A	21	11月はねー	II		
B	22	(再び, Aの発言途中で) あるよ, でも, もう。	II		
A	23	えーもう, 話聞けよ, お前。(不機嫌そうに, 顔をしかめる。)	II		
T	24	最後まで話聞いて欲しいよね。はい。(静かになる。)	/		
A	25	ぼくねー…			
C	26	(Aの発言途中で, 横を向いていたDに向かって) 前向く!			II

A	27	月見団子は、味がおいしくて、みたらしだんごとかー	II		
T	28	今、黄色と言ったよね。黄色の理由を教えてください。			
A	29	えっとねー、秋は、まーん月で、うさぎがあつて、満月のお月でなんか、お餅をつけて、なんか月見団子食べている。(身振りをつけて話している。)			
T	30	あー、お月見の月のイメージなのかな？ では、先生が選んだ色はー ジャン！（生徒全員、戸棚に注目する。）			
D	31	あっ！茶色かー、あー惜しかったなあ、私ね、ホントは赤だったよねー			

4-2. 「関わり合い」の中での学ぶ姿の変容

評価規準(表3)を基にして、「関わり合い」の中での主体性、多様性、協働性の変容を、評価基準のステージで示し、表7に表す。評価は、授業記録に基づいて授業者が行い、続いて東雲中研究部員とともに3名で実施した。

表7 「関わり合い」の中での学ぶ姿の変容

生徒	A			B			C			D		
	主	多	協	主	多	協	主	多	協	主	多	協
4月	I	I	I	II	I	I	II	I	I	II	I	I
5月	I	I	II	II	I	II	II	II	II	II	I	II
6月	II	II	I	II	I	I	II	II	I	I	II	II
7・8月	II	II	I	II	II	I	II	II	I	II	II	II
9月	II	I	I	II	I	I	III	II	III	II	II	II
10月	I	I	I	II	III	II	III	II	II	III※	II※	II※
11月	II	II	II	III	II	II	III	III	II	III	II	II
12月	III	I	I	III	I	I	III※	II※	III※	III※	I※	I※

表中の※は、「関わり合い」の中で、クールダウンのため退室した場面があったことを示す。

(退室後は教室に戻って話し合いに参加している。)

太枠は、5. 考察のポイントにした箇所を示している。

5. 考察

特別支援学級における学びを豊かにする授業について、学ぶ姿の変容(表7)、年間計画(表1)・学習過程の変容(表2)、逐語記録(表4, 表5, 表6)を基に考察する。

5-1. 学ぶ姿の変容(表7)と年間計画(表1)・学習過程の変容(表2)からの考察

5-1-1. 生徒が見通しをもつことは、関わり合いを促進することにつながる

月毎の変容を見ると、4月はカレンダー作りの方法を理解し見通しをもって活動することを目標としたため、教師の介入が多い協働的作業が多く、評価が低い。5月は、4月カレンダー作成時期から間もない時期に作成し、新たな関わり合い方をルールとして明確に示したことで、ルールを守ろうという意識の高まりで評価が上がったと考えられる。6, 7・8月は、教師の介入を控え、ルールを掲示し、前月までの生徒の知識・経験を活用させる授業を行った。生徒は互いに自分の役割を明確にし、自分の役割を遂行しようとしていたため、評価が徐々に上がってきたと考えられる。2学期も、それまでの知識・経験を活用させながら9月、10月には、新たな知識の習得や新たな関わり合い方を加えた。11月は前

月と同様の学習過程であったため評価が高くなったと考えられる。これは1学期の7・8月にも見られた傾向である。このことから、生徒が授業の大まかな流れを理解し、見通しをもっている状況で、興味・関心をもたせながら、少しずつ関わり合い方に工夫を加えることが学びを豊かにすることにつながると考えられる。

5-1-2. ジャンプアップしすぎる課題を提示することは、関わり合いの促進につながらない

一方、12月には、話し合いの中で自分の意見を出し合うことができても、まとめることができなかつたり、生徒が話し合いの途中で退室する場面があったりし、評価が下がっている。これは、これまでは教師が選んだカレンダーの色を、選んだ理由を考え予想し当てるという学習から、生徒一人一人が12月らしい色を考え、意見を出し合い合意形成し、色を決めるという「新たな関わり合い方」をもたせた課題にしたことによると考えられる。合意形成する方法をスモールステップで学習したり、話し合いの内容や流れを視覚化し、生徒一人一人が理解でき話し合いに参加したいと思えるようにしたりする支援が必要であったと考えられる。

5-2. 学ぶ姿の変容(表7)と逐語記録(表4, 表5, 表6)からの考察

5-2-1. 自分の思いを伝える場面を増やすことが、主体性を高めることにつながる

学ぶ姿の変容(表7)から、「主体性」は、個人差はあるが4人とも高まっている傾向が見られた。表6(11月逐語記録_____線部分)にあるように、一人一人が理由をつけて自分の考えを伝えようとしていた。意思を表す場面を設定し、自分の思いを伝える場面を増やしたり、「理由は～」の話し型を使って話すことをいろいろな場面で活用したりしたことで、成果が見られたと考えられる。

5-2-2. 他者の思いを意識させる問かけが、多様性を高めることにつながる

「多様性」は、12月の評価を除くとB, C, Dは高まっている傾向がうかがわれる。話し合っ決めて決める場面で、他者の思いより自分の思いを押し通し、相手が嫌な思いをする場面が何度か起こった。その場面で、「もし自分が○○だったら、どんな気持ちになる?」と客観的に考えさせたり、「今、○○さんは、どんな気持ちか分かる? 聞いてみようか。」と相手の思いに気付かせたりすることで、他者の思いを意識するようになった。次の話し合いでは、前回の話し合いの雰囲気悪さを反省し、お互いの思いを聞き合おうという意識が芽生え始めてきた。Aは、作業処理に時間がかかり、マイペースで自分の課題をやり遂げ、他者の言動への意識・関心は低いと考えられる。また表4(9月逐語記録)を見ると、Cの提案(C6)を聞き、A, B, Dとも答えている。しかし、Aは「オレ10個」(A9)と答えており、内容を理解できていないか、注目行動だと考えられる。表6(11月逐語記録___線部)では、他者の意見につながりをもたせた言動や他者を尊重した言動が見られるようになった。「○○さんと同じで(ちがって)」の話し型を取り入れ話し合いを重ねていく中で、話し型を身に付け、他者を意識した言動ができるようになったと考えられる。

5-2-3. 多様な関わり合いの積み重ねが、協働性を高めることにつながる

「協働性」は、多様性と同様に、12月の評価を除くとB, C, Dは高まっている傾向がある。4人とも始めは自分の思いを重視する場面が多く、怒ったり、泣いたり、教室から逃げ出す場面もあったが、カレンダーがひと月毎に増え、それを見ながら失敗や成功を自分たちで振り返ったり比較したりしながら、次はこんな風なカレンダーを作りたいと話し合えるようになってきた。Aは、ほとんど変容は見られないが、自分の役割を理解し取り組んでいた。また、行事分担でAとBの希望が重なった時に、Bが進んで自分たちで解決しようとする場面があった(表5:10月逐語記録, B4~A11)。他にも、机に伏せているAにBが近づき、言葉ではなくそっと行事カードを渡し、一緒に貼りに行こうと手を取る場面も見られた。他者への関心が低く自分中心のことが多かったBの変容は、2学期過ぎてから見られることが増えた。4月からの学習や学校生活の中での多様な関わり合いの中で他者へ意識や関心が高まり、協働性も高まってきたと考えられる。Cは、2学期以降に自分の行動を振り返り改善しようという姿が見られるようになった。話し合いで司会をした時にはみんなの意見を聞こうとしたり、よりよくカレンダーを作ろうと新しい提案をしたりするようになった(表4:9月逐語記録, C1, C6)。また自分の意見や提案が認めてもらえない時には、不機嫌になるが、次の機会は譲ってほしいと条件を付けて譲ることができていた(12月の色決めの時)。課題解決の方法を、繰り返しの学習の中で振り返ったり、先

の見通しをもったりしながら探ることができるようになってきていると思われる。Dは、同じパターンの学習過程により完成までの見通しがもて、早く完成させたい思いが強く見られた。そのため、話し合っていて決める場面で時間がかかると、先に進めないことで情緒不安定になることがあった。また自分の意見を伝えるが、他者の意見と異なる場合は、早く課題を進ませようと、すぐ譲ることが多かった。他者と協力して課題遂行はできるが、課題解決に向けて提案をする姿は見られなかった。Dは「話し合いが苦手」と言う。話し合う内容を、Dにとって価値のあるもの、理解しやすいもの、みんなで話し合っていて良かったと思えるものとなるように工夫改善したり、見通しが持てるように、話し合い・作業等の時間を予め決めて明示する、タイマーを使う等の支援をしたりする必要があると考えられる。

6. まとめ

この研究の成果は、同じパターンの学習過程の中で、月毎に「新たな関わり合い方」や「新たな知識」、「新たな経験」を少しずつ加え、工夫しながら年間計画を立てることで、生徒はそれらに対応しながら、主体性、多様性、協働性を高められたことである。

具体的な成果として、次の5点を示すことができた。

- ①生徒が見通しをもつことは、関わり合いを促進することにつながる
- ②ジャンプアップしすぎる課題を提示することは、関わり合いの促進につながらない
- ③自分の思いを伝える場面を増やすことが、主体性を高めることにつながる
- ④他者の思いを意識させる問いかけが、多様性を高めることにつながる
- ⑤多様な関わり合いの積み重ねが、協働性を高めることにつながる

課題は、課題解決に向かう話し合いでの合意形成が難しかったことである。他者の意見をくみ取ったり認めたりする多様性や、課題解決のために折り合いをつけようとする協働性が、生徒によって偏りがあった。生徒一人一人が課題解決することに価値を見出したり、合意形成の方法を身に付けたり、課題を理解し自分にも関わることとして考えられるようにしたりする支援が必要であった。

今後は、魅力ある課題設定、合意形成の方法を習得する学習計画、個々の特性に応じた理解を促す支援（視覚支援等）を開発し、生徒の主体性、多様性、協働性を高めていきたい。そして、生徒自身が自分たちで課題を見つけ、自分たちで話し合いながら課題解決し、共に達成感や成就感をもち、互いに尊重し合うことの大切さに気付ける視点を盛り込み、更なる研究推進に取り組みたい。

【引用・参考文献】

- 広島大学附属東雲小学校・東雲中学校,「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造—協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして—, 東雲教育研究会実施要項, 2015.
- 広島大学附属東雲小学校・東雲中学校,「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造Ⅲ—学びを豊かにする授業の探求—, 東雲教育研究会実施要項, 2017.
- 文部科学省, 中学校学習指導要領, 2017.
- 国立教育政策研究所, 国研ライブラリー 資質・能力 [理論編], 2016.
- 若松昭彦・水野遥・陰菜穂子, 配慮が必要な児童をインクルーシブする学級活動の実践—学級という「小社会」を創造する資質・能力の育成—, 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第一部, 第65号, 103-111, 2016.
- 若松昭彦・川原陽子・熊田信一郎・鏡原崇史, 小学校通常の学級における学級活動の実践—「話し合い活動」での言動分析を通して—, 学校教育実践学研究, 第23巻, 131-138, 2017.